

# 時をこえる仏像

～どのように壊れ、修復されるのか？～



大師堂 阿弥陀如来立像  
(左:修復前/右:修復後)

「仏像はどのように造られているのか？そしてどのように壊れていくのか？」  
数百年の時を経て私たちが目にする仏像の多くは木造であるが故に壊れ、そして修復師たちの手によって修復されてきました。材質や構造から仏像を見つめると、外見から眺める表情や御姿とは違った面が浮かび上がります。材質や構造を中心に、仏像がどのように壊れていくのか、また、像の胎内や納入品についてなど、修復者ならではの立場からお話します。

**講師** 飯泉太子宗（古仏修復工房主宰）

茨城県生まれ。仏像修復師。東北芸術工科大学、芸術学部(文化財保存)卒業。

(財)美術院国宝修理所を経て、特定非営利活動法人「古仏修復工房」を設立。関東を中心に仏像・文化財修復を行なっている。著書に『壊れても仏像』（白水社）、『時をこえる仏像』（筑摩書房）、『たのしい仏像』（廣済堂出版)など。

## 開催概要

- 日時：2016年10月19日（水）14:00～15:30（13:30開場）
- 会場：日比谷図書文化館 地下1階 日比谷コンベンションホール（大ホール）
- 定員：200名（事前申込順、定員に達し次第締切）
- 参加費：1,000円 申込方法：来館（1階受付）、電話（03-3502-3340）、Eメール（college@hibiyal.jp）  
いずれかにて①講座名、②お名前（ふりがな）、③電話番号をご連絡ください。